

沖縄にどんどん行こう

金安弘

はじめに

昨年2月24日のロシアによるウクライナ侵攻から1年になろうとしている。私たちが感じてしまうこの重圧感はどこから来ているのか。しかも、広島G7サミットを前に、加速的な重圧感を感じてしまう。

ロシアは、80年代のソ連によるアフガニスタン侵攻の失敗と敗退をウクライナでまたやっている。アメリカは、ベトナム戦争の失敗と敗退をイラク・アフガニスタンでまたやり敗退した。にもかかわらず繰り返す。「軍事力という国家暴力で問題を解決できる」と信じているからだと思う。「相手を上回る抑止力＝軍事力が戦争をストップさせる」。有権者・大衆がそれを信じる限り戦争はなくなる。日米両政府は、それをまた沖縄を中心にした南西諸島で繰り返そうとしている。隣の国々がそれをどう見ているのかなどお構いなしだ。ある地域での戦争作戦計画は、その地域の戦場化を前提とする。沖縄地域での日米の作戦計画は、だから沖縄地域の戦場化を前提とする。政府もマスコミも地上戦を経験した沖縄を無視、要はバカにしている。他地域の人々は、「沖縄に限定されるならやむなし」と思っているのだろうか。バカ野郎！そんなはずあるわけない。沖縄が戦場になるということは日本全体が戦場になるということだ。

77年前の経験からこそ「憲法9条を守れ！」という声が繰り返された。だが、今や坂田雅裕元内閣法制局長官から「憲法9条は死んだ」と批判される状況になってきた。憲法と日本の軍事的現状を見ると、この80歳の弁護士のため息ともいえる言葉に同意したくなる。だが、法的な違憲状態を正そうとする限り、「9条今だ死せず」というしかないし、日本国が何かを考えると、その歴史を背負う9条が判断基準になる。戦争を放棄したはずの日本国が今、着々と戦争準備をしている国に変質している。この変質を止められるのか。政党、労働組合、平和運動の力で止めることができるのか。

「戦争準備サミット」を広島でやる。これほど皮肉な運命が敗戦78年目に来るとは想像できなかった。「日本は沖縄地域を犠牲にする覚悟です」という暗黙の前提での主要国戦争会議であり、昨年6

月末にスペインで行われたNATO首脳会議に岸田首相が参加した意味もここにある。最初に述べた重圧感、重圧感の中身とは言葉にすれば以上のことだと自己認識しています。

半年に1回は沖縄に行く決めて10年。昨年も1月に石垣島、12月に辺野古と行ってきました。ホテル・レンタカー付の2万1千円。毎月新潟の長岡に行っているのですが、約3万円の交通費です。いつも一緒に行っている杉ちゃんの提案に飛びつきました。これで通年行けるなら年に3回は行ける。2泊3日でしたが、いくつか報告し、現地の現状を共有したいと思います。

今、東村高江で頑張っているのは北海道出身のTさんです。「工事の監視活動というより、オスプレイの監視活動といったほうが現状に近い。毎日何時に飛んでいるのかということカメラで記録しています。お昼前だからもうすぐ来ます」と言っていたら、テントの左上空を2機のオスプレイが飛行してました。その重低音は本当に不快だ。北海道の子どもたちと別れ、沖縄に墓を作るつもりと言っていました。

午後からは、琉球セメント前の阻止行動に参加。15人ほどでダンプの前を青信号になると歩道を行ったり来たり。3～4台しか入れないから信号前で常時40台余りのダンプの車列。県警の監視の中での本当の阻止行動です。一人の女性がダンプの前を歩くたびに、運転手に向かって頭を下げ「ごめんね」と言いながら阻止行動をしているのが印象的でした。

次の日は、基地前の座り込みに参加。名古屋から月の半分を沖縄に行っている山下さんが地元の人と溶け込みながら世話をしてくれ、地元の人と差し入れで昼食を食べ、さよならして午後からは嘉手納基地に向かいました。

増設された基地前の道の駅は、基地にぐっと近づき、ほぼ全体が見えるようになりました。2時前にF35A 4機が着陸。これで終わりかと思ったら、4編隊16機の飛行訓練で、隣のカメラマンが「F15からF35への引継ぎの最終訓練だ」と言う。こんな

すごい訓練は初めて見たよ」と驚いていました。1時間以上の轟音の中、「これが安保の現実か！」とクラクラきた。

5月の広島サミットが終わると、次は米軍の中距

離ミサイル、自衛隊のトマホークミサイルの導入の問題が浮上します。観光目的だろうと、座り込み目的だろうと「どんどん沖縄に行こう！」と呼びかけます。

◆高江の「ヘリパッドいらない」住民の会は YouTube 配信企画 ありがとうやんばるを配信しています。◆

高江の現状を知るためにぜひ、ご覧ください。

<https://www.youtube.com/channel/UCL-NmKPN-VqqLd3yLFV-oEw>

第31回は、Okinawa Environmental Justice Project (OEJP)代表 吉川秀樹さんの

【高江】やんばるの森を真の世界遺産に 現状・課題・今後の取り組み—第18回— (14分36秒)です。

<https://youtu.be/6gzvzTckMAO>

◆ニュースで何度か紹介していますが、昨年2月「ノーモア沖縄戦 命どう宝(ヌチドゥタカラ)の会」が発足しました。賛同を呼びかけていますのでぜひ賛同をよろしくお願いします。

定期的なメルマガが配信され、沖縄・南西諸島の現状と問題がよくわかります。賛同は以下のHPから。

※ホームページアドレス:<http://nomore-okinawasen.org>

「ノーモア沖縄戦 命どう宝(ヌチドゥタカラ)の会」全国へのメッセージ

共同代表 石原昌家、具志堅隆松、ダグラス・ラミス、宮城晴美、山城博治

平和を愛する全国の友人の皆さま。今、「南西諸島」全域が戦場にされようとしています。

日米両政府は「台湾有事」を声高に喧伝し恐怖をあおり、「有事勃発の際」には台湾に近い沖縄の島々(与那国島、石垣島、宮古島、沖縄島)や鹿児島島の奄美大島、馬毛島など「南西諸島」と総称される島々が戦闘に巻き込まれ戦場になると公言してはばかりません。それもそのはずです。現在これらの島々には対中国戦争をにらんだ自衛隊のミサイル基地やレーダー基地そして自衛隊員の駐屯基地が急ピッチで建設され部隊配置が進められています。「有事勃発の際」にこれらの島々から近海を通過する中国艦船や航空機にミサイルが発射されて攻撃が加えられる計画です。さらに昨年相次いで開催された日米首脳会談や外務・防衛担当閣僚協議「2プラス2」では、日米が一体となって行動することが確認されました。島々の自衛隊基地は米軍との共同使用となり、同時に米軍の長距離高性能ミサイルが配備され、島々から直接中国本土を攻撃できる態勢を構築することが合意されています。

昨年末、この日米共同の軍事行動計画を共同通信がスクープし初めてその概要が明らかになりました。岸田首相がにわかに強調し始めた「敵基地攻撃能力」は直接的には自衛隊の攻撃力強化を指していますが、事実上は米軍の長距離ミサイル配備を指していると考えられ、これが戦争の引き金になりかねません。この日米の中国をにらんだ共同の軍事計画は、当然対象にされた中国の強い反発を呼んでおり、計画通り軍事行動が展開されると、島々が真っ先に反撃の対象とされ戦場となることは必至です。ひとたび戦火が開かれると島々は逃げ場のない地獄の戦場と化すことは誰の目にも明らかであるにもかかわらず、残念ながら、日米両政府からは「有事」を回避するための外交努力が全く窺えません。それどころか、日本政府はことさらに「中国脅威」を喧伝して国民世論を「戦争やむなし」に誘導しているとさえ思えてなりません。岸田首相はじめ政府閣僚、自衛隊関係者の言動に身震いする恐怖を覚えます。

全国の友人の皆さま。私たちはこのような事態にあたり、再び沖縄の島々を、「南西諸島」全域を戦場にさせまいと、去る1月31日「ノーモア沖縄戦 命どう(ヌチドゥ)宝の会」を設立し、県内外に「戦争反対」「外交で平和を築け」との私たちの強い思いを発信することにいたしました。会の設立趣旨、活動計画など詳細については、ホームページをご覧ください。戦争へと暴走する日米両政府の拙速な軍事行動を止め、対話による平和を求める世論を作り出し、その力で無謀な戦争を止めましょう。全国の皆さまのご理解とご賛同、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。戦争へとひた走る政府の暴走を共に止めましょう。